連載

司祭館の窓から ㉖

「聖書」って…

山元（やまもと） 眞（まこと）（行橋（ゆくはし）教会主任司祭／福岡教区）

山元（やまもと） 眞（まこと） 神父

「聖書」って聞いたら…どんな感じだろうか。難しい？　わからない？　面倒？　べつに聖書を知らないでも生きていける…と思ってるのでは？

では、「神のことば」って聞いたらどんな感じだろうか。元気が出る？　安心する？　やはり、難しい？

わたしの記憶をたどっていくと…。参考までにわたしは今、五十五歳。幼児洗礼。家族はみんな信者。物心ついた時から教会とのつながりの中で生きてきた。カトリック幼稚園に通い、お祈りを覚え、聖劇をし、神さまのお話を聞いて育った。小学生になると、毎週一回、学校の帰りに教会に寄り「けいこ」と呼んでいた集いに参加する。今は教会学校と呼んでいる「お勉強会」である。小学校の低学年の頃は紙芝居やいろんな絵を見ながら「教え」を学んだ。小学校の高学年になると侍者会に入り、週日も新聞配達の帰りに教会に寄ってミサの奉仕をした。「けいこ」では公教要理の本がテキストになり、担当も神父になり、説明も難しくなり、厳しく暗記させられた。覚えていたのはその時だけで、頭が悪いので、今ではもうすっかり忘れている。

中学校から転校して小神学校に入った。神学校では「しなければならないこと」がたくさんあって、聖書も毎日読むことが義務だった。初めて自分の聖書を持ち、マタイ福音書から読み始めた。例の「系図」から始まる。カタカナで地名や人名がずらりと並んでいる。おもしろくない。先に進まない。

…というわけで、聖書の第一印象は「おもしろくない」だった。「おもしろいはず、ないじゃん！」という声が聞こえそう。

聖書を読まないといけない、読むといい、という思いはさらさらなかった。幼少の頃、司祭になりたい、と言ったとき、姉から言われたことを思い出す。作文も書けない、本も読まないあんたが神父さんになれるはずがない…。

告白しよう。聖書を「神のことば」として意識し、自分から進んで読み始めたのは司祭になる二、三年前からだ。助祭に叙階される準備を始めたころ「ことばの力」が気になり始めた。

聖書を読み始めた。解説書もたくさん買って読んだ。聖書の話、イエスの言葉の意味を探った。いろんなことが分かり始めた。知識も増えた。聖書が「おもしろく」なっていった。

司祭に叙階される直前の黙想会。一人で観想修道会にこもった。聖書だけを読んだ。恥を忍んで言おう…。その時、初めて「聖書」が「神のことば」として自分に聞こえてきた。初めて「神のことば」が生きていると感じた。初めて「神のことば」が食べ物だとわかった。

フィリピン・ミンダナオ島の子どもたち

「神のことば」である「聖書」は「食べ物」である。申命記に次の言葉がある。「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる…」(8・3)。荒野での断食の後、空腹を覚えられたイエスは、悪魔の誘惑に次のように答える。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」(マタイ4・4)。

地区で「聖書講座」が開かれている。小教区でも「聖書の勉強会」なるものが開かれている。集まる人は少ない。「聖書」と聞くだけで退いてしまうようだ。今度は名称を変えてみようと思う。どんな名称にしようか…。何か、いい呼称はありませんか。「み言葉を食べよう」なんかも、よくわからないし…。「生きる力・神のことば」はどうだろうか。最近の流行にのって「み言葉力」はどうだろう。

神の言葉には力がある。「起きなさい」「あなたの罪は赦された」「見えるようになりなさい」「わたしはあなたと共にいる」…など。神の言葉を食べると生きる力がわいてくる。

元気がない世界。閉塞感に悩む教会。神の言葉を食べてないからじゃない?

【教会ホームページ】
http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/
【ブログ】
http://micheleyam.exblog.jp

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156　FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

㈱ 沼崎商会

サマリア式典部　沼崎　馨